

緑内障フレンド・ネットワーク 患者会員調査

緑内障患者が診断前に感じていた目の不調

3人に1人が「本や新聞の文字が読みにくく、疲れる」
“緑内障”を疑った人わずか9%、診断時には73%で視野欠損
自治体・企業の健診で緑内障早期発見の取り組みを！

緑内障の患者組織である緑内障フレンド・ネットワーク(代表:柿澤映子、会員:1,600名)は、緑内障患者の実態を把握するため、2007年3月8日~4月8日、患者である会員を対象にアンケート調査を実施しました。

その結果、31.8%(279/876人)の患者が、緑内障と診断される前、「本や新聞を読んでいるとき、文字が読みにくく、疲れることが頻繁にあった」と目の不調や不便さを感じていたことが分かりました。このような目の不調があったとしても、緑内障を疑った人はわずか9.2%(47/511人)に過ぎず、多くの人が「目の疲れ」、「視力低下」や「老眼」のせいだと思っていました。しかし実際には、緑内障と診断された時点で、73.1%(656/898人)の人に視野欠損があると診断されていました。地方自治体や企業で行う健康診断に緑内障の診断項目を加える、40歳以上の方は年に1回は定期的に目の検査を受けるなど、緑内障の早期発見への積極的な取り組みが必要であることが示唆される結果となりました。

【調査結果の要約】

■ **緑内障と診断される前、31.8%に「本や新聞の文字が読みにくく、疲れる」目の不調**

緑内障と診断される前に感じていた目の不調として、「本や新聞を読んでいるとき、文字が読みにくく、疲れることが頻繁にあった」と回答した人が全体の31.8%(279/876人)を占めました。緑内障と診断された時に、「視野が少し欠けていた」と診断された人のうち、診断前は「特に目の不調や変わったできごとはない」と回答した人が47.6%(208/437人)と最も多く、自覚症状が現れにくい緑内障の特徴を顕著に反映する結果となりました。

■ **目の不調を感じ、「緑内障」を疑ったのはわずか9.2%**

緑内障と診断される前に目の不調があった人の中で、「目の疲れ」を疑った人が40.7%(208/511人)、「視力低下」を疑った人が38.4%(196/511人)、「老眼」を疑った人が24.5%(125/511人)を占めました。一方、「緑内障」を疑ったのは、わずか9.2%(47/511人)でした。

■ **緑内障と診断された時点で、視野に欠損があると診断された患者は73.1%**

緑内障と診断された時点で視野に欠損があると診断された人は、視野が「少し欠けていた」48.7%(437/898人)、「半分欠けていた」12.1%(109/898人)、「かなり欠けていた」12.2%(110/898人)で、合計73.1%(656/898人)に上りました。

■ **緑内障のタイプの中で、半数がNTG(正常眼圧緑内障)**

緑内障のタイプではNTGが最も多く、全体の49.2%(449/912人)を占めました。NTGは特に日本人に多いと言われ、眼圧検査だけでは発見できないタイプの緑内障です。

■ **緑内障と診断された年齢は、50代が最も多い**

緑内障が発見された年齢は50代が最も多く36.4%(328/902人)、次いで40代が24.3%(219/902人)、60代が19.4%(175/902人)となりました。

■ **緑内障で日常困る事として、半数が「文字が読みにくく、疲れる」**

緑内障になり日常生活で困ることや不便に感じる事として、「文字が読みにくく、非常に疲れる」と回答した人が47.0%(418/890人)、「夕方以降、暗くなると外出の際に不安を感じる」が33.6%(299/890人)でした。

■ **健康診断で緑内障が発見された患者はわずか9.4%**

緑内障が発見されたきっかけは、「他の目の疾患で眼科を受診した」が23.2%(211/909人)と最も多くみられました。一方、健康診断で緑内障が発見された人は、わずか9.4%(85/909人)でした。健康診断に、緑内障の発見につながる検査項目が含まれていない場合が多いためだと思われる。

■ **7割~8割以上の患者が自治体、企業の健康診断での緑内障検診を希望**

緑内障の早期発見のために必要な取り組みとして「地方自治体の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」と回答した人は86.8%(787/907人)、「企業の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」と回答した人は74.1%(672/907人)に上り、ほとんどの人が健康診断の検査項目に緑内障の発見につながる検査を導入する必要性を訴えています。

■ **99.1%の患者が、「緑内障でなくても、目の定期検診は必要」と回答**

回答者のほぼ全員、99.1%(889/897人)が「緑内障ではない人でも、目の定期検診は必要」と回答しています。

■ **81.8%の患者が、緑内障は「早期発見・早期治療が大切」と回答**

緑内障に対して抱くイメージは、「早期発見・早期治療が大切」が81.8%(745/911人)で最も多く占めました。「今でも、失明する怖い病気だと思っている」人が50.2%(457/911人)と回答者の半数を占め、「治療を受けていれば失明はしない」28.4%(259/911人)を大きく上回りました。

* 調査の概要につきましては別紙をご参照ください。

緑内障フレンド・ネットワーク事務局長 野田 泰秀

本リリースに関する報道機関からのお問い合わせ
緑内障フレンド・ネットワーク事務局
〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-16-501
TEL:03-3272-6971 FAX:03-3272-6972
<http://www.gfnet.gr.jp> e-mail: info@gfnet.gr.jp

参考資料

緑内障フレンド・ネットワーク「患者会員アンケート調査」概要

調査目的: 緑内障の実態を把握し、今後の啓発活動に役立てる。

調査設計: 調査対象 緑内障フレンド・ネットワークの患者会員 有効回答:912 名

調査方法 郵送調査

調査地区 全国

調査期間 2007年3月8日～4月8日

内訳:

	男性		女性		計	
40未満	20	(7.0%)	24	(3.8%)	44	(4.8%)
40代	48	(16.8%)	74	(11.8%)	122	(13.4%)
50代	60	(21.0%)	196	(31.3%)	256	(28.1%)
60代	76	(26.6%)	207	(33.1%)	283	(31.0%)
70以上	82	(28.7%)	125	(20.0%)	207	(22.7%)
計	286		626		912	

平均年齢: 60.6歳 (男性:59.8歳、女性:60.1歳)

調査結果の詳細

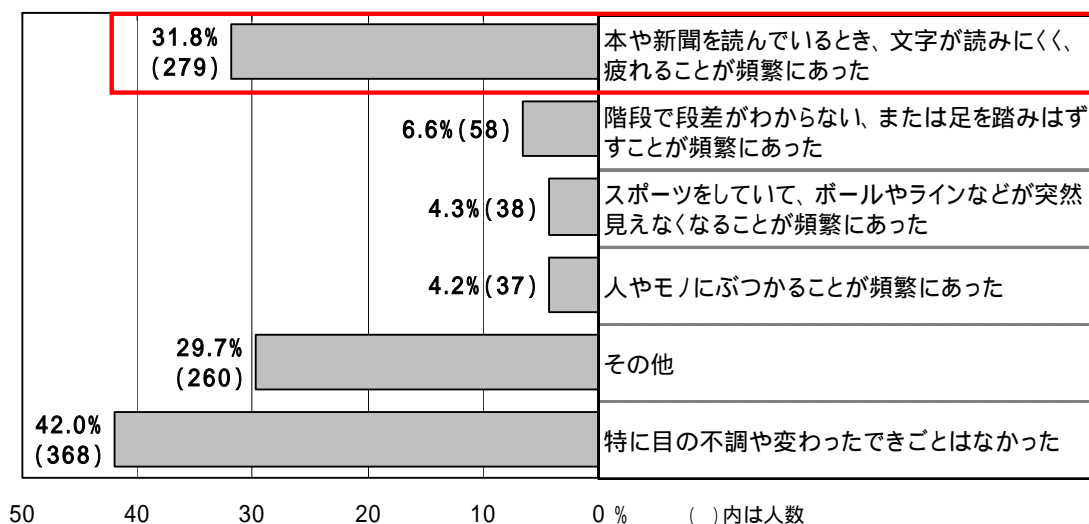
1. 診断前に感じていた目の不調

「本や新聞を読んでいるとき、文字が読みにくく、疲れることが頻繁にあった」が最も多く全体の31.8% (279/876 人) を占めました。具体的な回答としては、「目が疲れて長時間の読書ができない」、「目の疲れで仕事に支障をきたす」などが挙げられました。

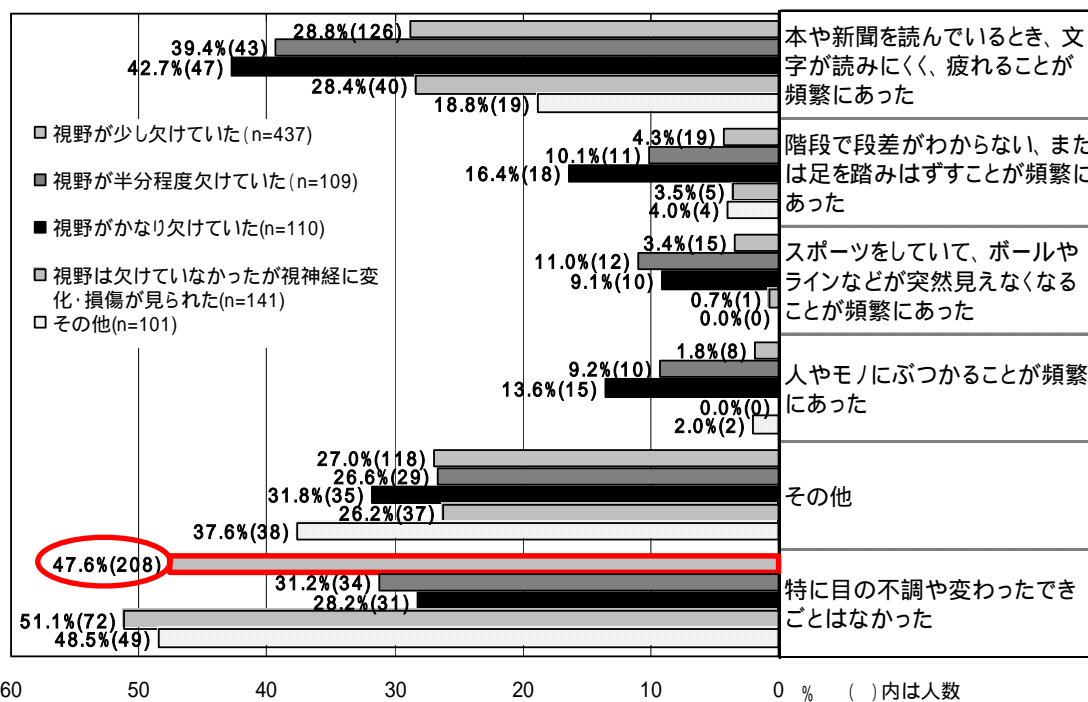
スポーツ時の不調に関する具体的な回答としては「ゴルフの最中、ボールがまっすぐ飛んでいのに見失うことがあった」、その他の具体的な回答としては「メガネやコンタクトレンズが実際には汚れていないのに汚れている感じがした」、「文字が薄く見える」、「目がかすむ」など、視野欠損によるものと思われる状況が多く挙げられました。

質問：緑内障と診断される前に、感じていた目の不調やできごとがありましたか？

(n=876、MA)



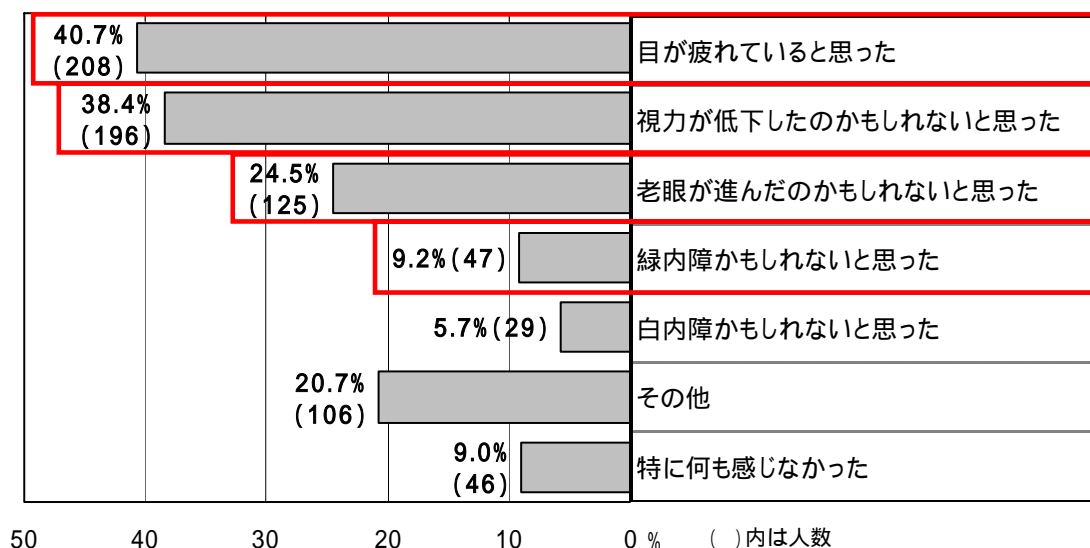
また、緑内障と診断された時に、「視野が少し欠けていた」と診断された人のうち、診断前は「特に目の不調や変わったできごとはなかった」と回答した人が 47.6% (208/437 人)と最も多く、自覚症状が現れにくい緑内障の特徴を顕著に反映する結果となりました。



2. 目の不調の原因

緑内障と診断される前に、目の不調を機に「目の疲れ」を疑った人が 40.7% (208/511 人)、「視力低下」を疑った人が 38.4% (196/511 人)、「老眼」を疑った人が 24.5% (125/511 人) を占めました。一方、「緑内障」を疑った人は、わずか 9.2% (47/511 人) でした。

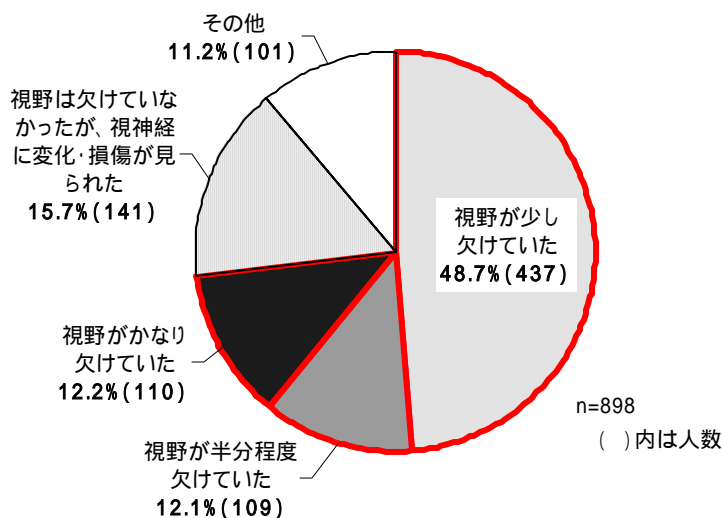
質問. 目の不調やできごとを機に、目の病気を疑いましたか？ (n=511、MA)



3. 緑内障診断時の状況

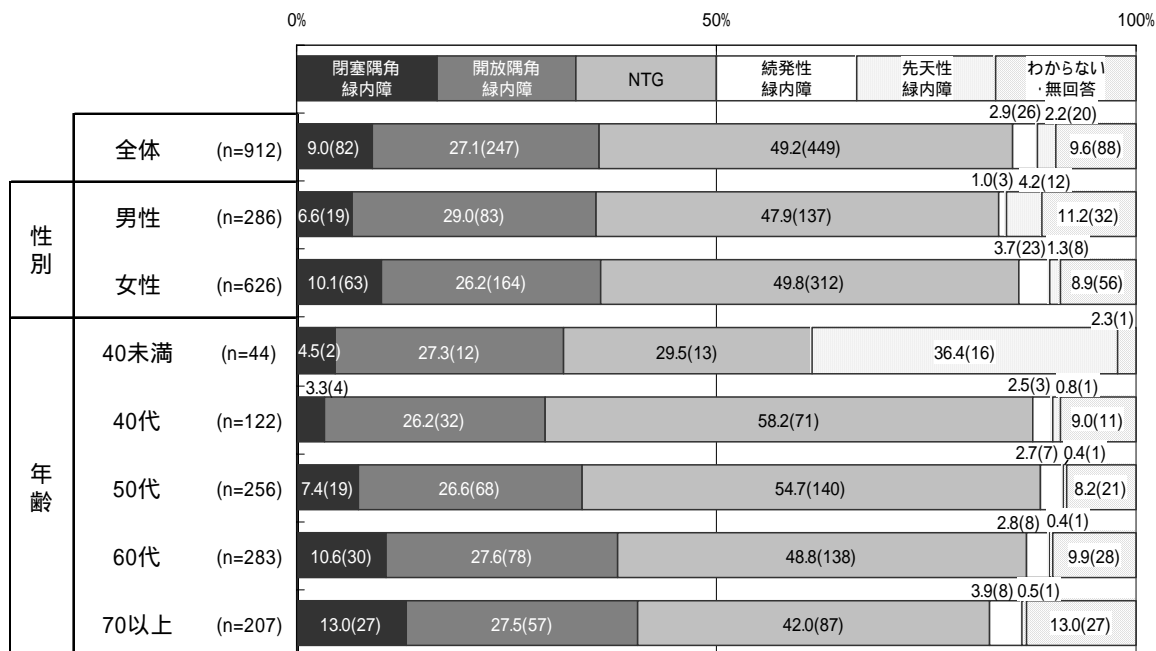
緑内障と診断された時の進行状況は、「視野が少し欠けていた」48.7% (437/898 人)、「視野が半分程度欠けていた」12.1% (109/898 人)、「視野がかなり欠けていた」12.2% (110/898 人) で、合計で 73.1% (656/898 人) に視野欠損が見られました。

質問. 緑内障と診断された時点での病状についてお教えてください。 (n=898、SA)



4.緑内障のタイプ

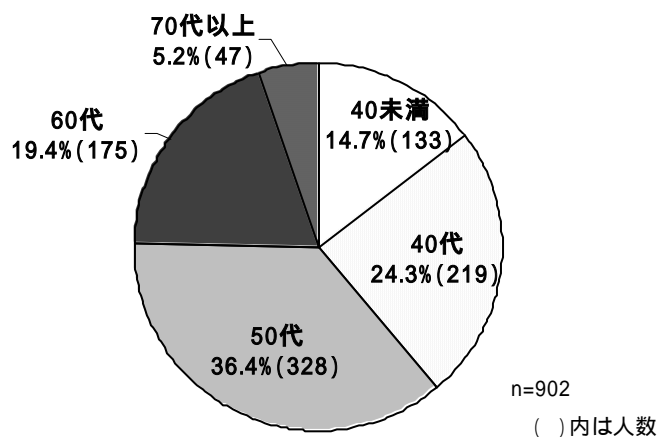
緑内障のタイプは「NTG (正常眼圧緑内障)」が 49.2% (449/912 人)と最も多くを占めました。
質問 . あなたの緑内障はどのタイプですか。 (n=912、SA)



5.緑内障発見年齢

緑内障の発見年齢は 50代が最も多く 36.4% (328/902 人)、次いで 40代が 24.3% (219/902 人)、60代が 19.4% (175/902 人)となりました。

質問 . 緑内障と診断されたのは、何歳のときですか？ (n=902、SA)

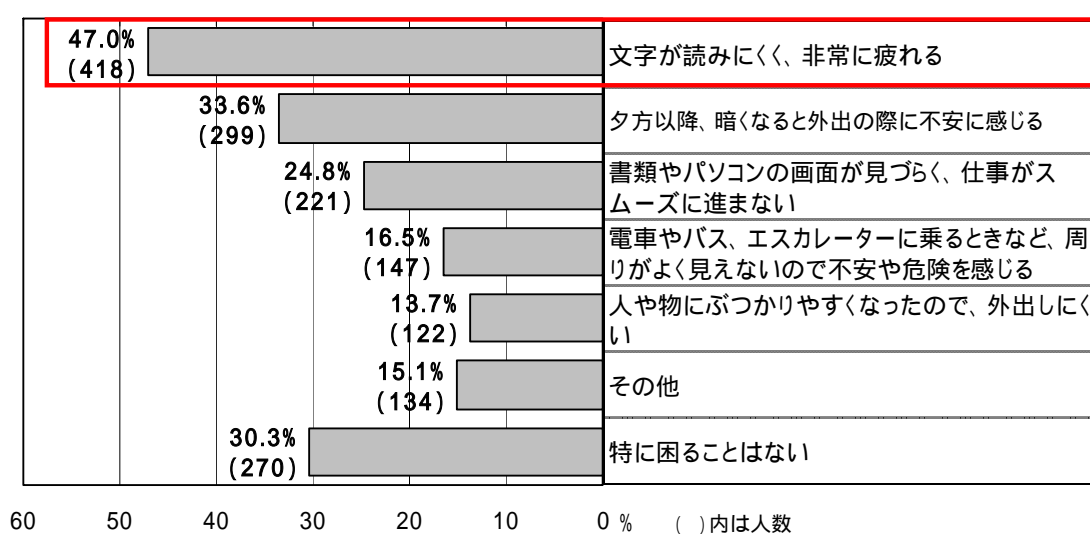


6.緑内障になり日常困ること

緑内障になって日常困る事として、「文字が読みにくく、非常に疲れる」と回答した人が 47.0% (418/890 人)、「夕方以降、暗くなると外出の際に不安を感じる」が 33.6% (299/890 人)でした。具体的な回答としては、「新聞や本を読むと目が疲れて苦痛である」、「新聞、本を読む速度が遅くなった」などが挙げられました。

夕方以降、暗くなった時に困ることの具体的な回答としては「暗くなると段差が見えにくくなり、足元が不安なので外出できない」、その他の具体的な回答としては「文章を 1 行とばして読んでしまう」、「球技などのスポーツが楽しめない」などの回答が挙げられました。

質問：緑内障になり、日常生活で困ることや不便に感じることはありますか？ (n=890、MA)

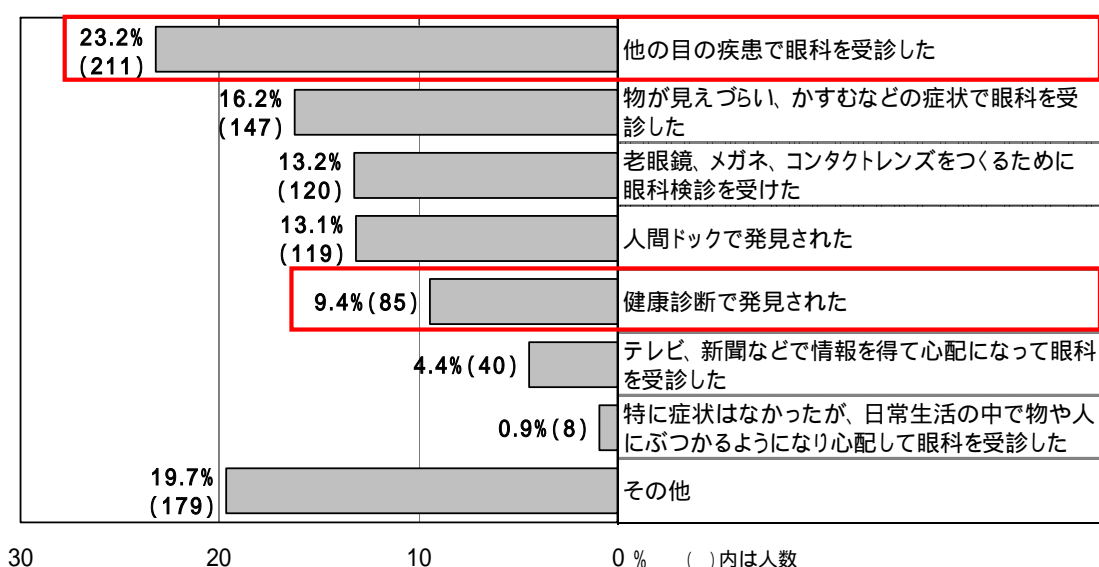


7.緑内障が発見されたきっかけ

緑内障が発見されたきっかけとして、「他の目の疾患で眼科を受診した」と回答した人が 23.2% (211/909 人) で最も多く、次いで「物が見えづらい、かすむなどの症状で眼科を受診した」16.2% (147/909 人)、「老眼鏡、メガネ、コンタクトを作るために眼科検診を受けた」13.2% (120/909 人)と何らかの理由で眼科を受診した際に緑内障が発見された人が、全体の約 5 割に上りました。

一方で、「健康診断で発見された」人はわずか 9.4% (85/909 人) でした。健康診断に、緑内障の発見につながる検査項目が含まれていない場合が多いためと思われます。

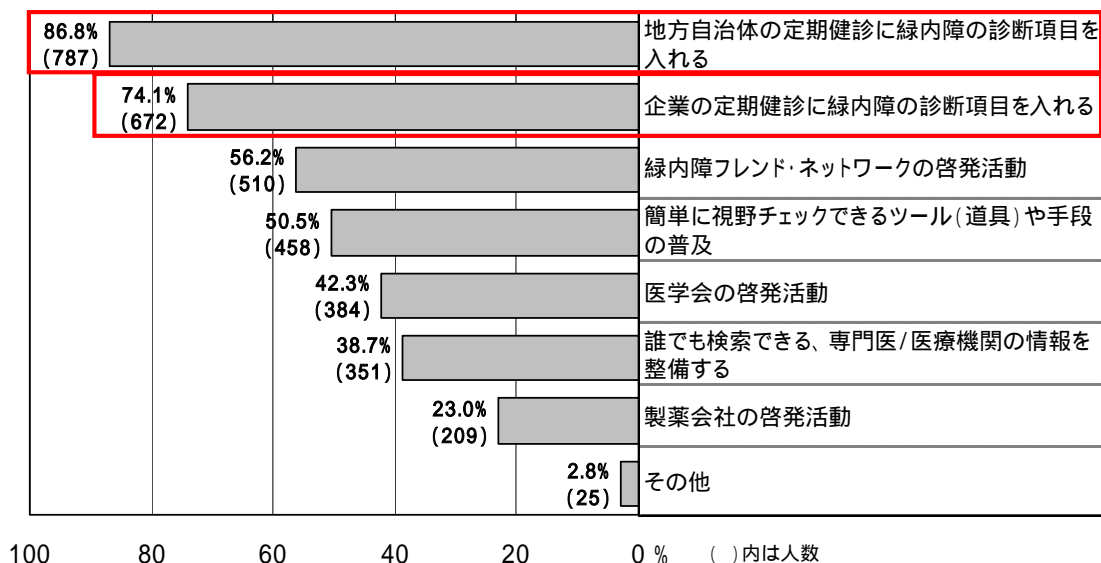
質問 . あなたが緑内障を発見されたきっかけは何ですか？ (n=909、SA)



8. 緑内障の早期発見のために必要な取り組み

緑内障の早期発見のために必要な取り組みとして、86.8% (787/907 人) が「地方自治体の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」、74.1% (672/907 人) が「企業の定期健診に緑内障の診断項目を入れる」と回答しています。多くの回答者が定期健診に緑内障の発見につながる検査項目が含まれる必要性を訴えています。

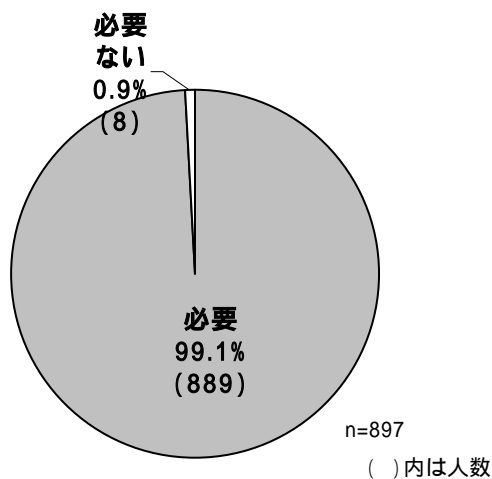
質問 . 緑内障の早期発見のために、必要な取り組みは何だと思いますか？ (n=907、MA)



9. 目の定期健診

ほぼ全員 99.1% (889/897 人) が「緑内障ではない人でも、目の定期健診は必要」と回答しています。

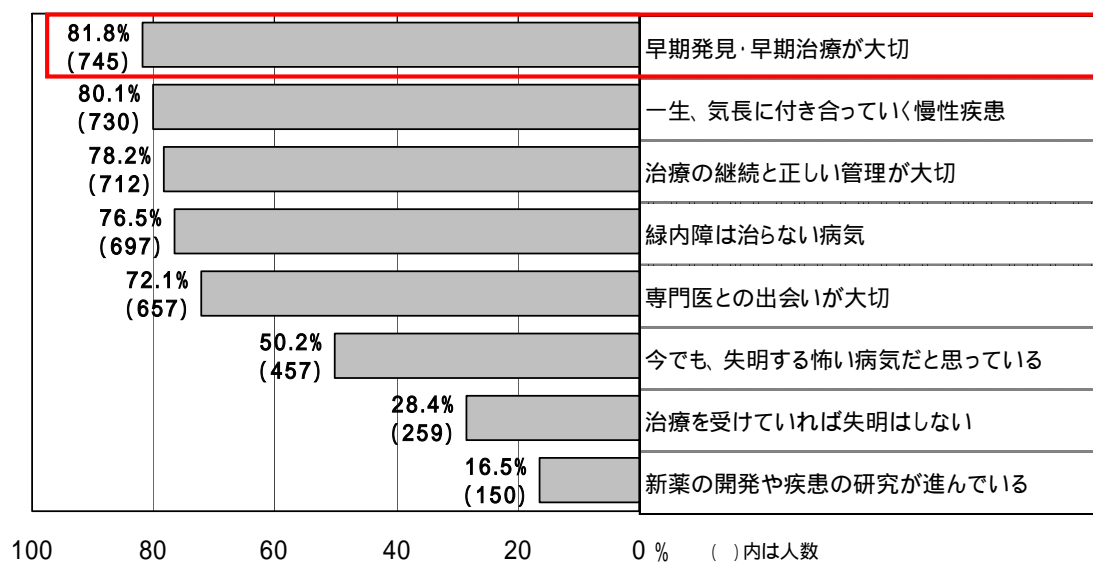
質問 . 緑内障ではない人でも、目の定期健診は必要だと思いますか？ (n=897、SA)



10.緑内障に対するイメージ

緑内障に対するイメージは、「早期発見・早期治療が大切」が最も多く、81.8% (745/911 人) でした。また、「今でも、失明する怖い病気だと思っている」人が 50.2% (457/911 人) と回答者の半数を占め、「治療を受けていれば失明はしない」28.4% (259/911 人) を大きく上回りました。

質問 . 緑内障について、あなたのイメージを教えてください。(n=911、MA)



以上